

1. 本園の教育目標

- 〈明るく、やさしく、たくましい子〉を教育目標におき、楽しい幼稚園生活を通して、心と体の成長をはぐくむ保育。
- *何事にも積極的に取り組み、最後までやり遂げる力、自主性と思考力を伸ばす。
 - *人を思いやれる優しさをはぐくむ。
 - *健康で明るく、情操豊かに。
 - *生活に必要な習慣や態度を身につける。
 - *いろいろな危険に対応できる理解と態度、交通に関する知識を学ぶ。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

創立70周年となる年にあたり、伝統に加えて、新たな変化に対応し、子どもたちの成長を守り育て、子育て世代の保護者を支援する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評 価 項 目	取 組 状 況
感染対策と健康管理 について	・3年にわたる新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、強度な感染対策の必要はなくなったが、コロナだけではなく、冬にはインフルエンザやアデノウィルスなどの流行も見られた。いろいろな感染症があるため、手指の消毒や毎朝の検温など基本的な対策は続けた。 ・今年の夏は大変な猛暑であった。その対策として、プールの上や園庭に複数のテントを張り日陰を作った。こまめな水分補給や室温管理に気をつけ、特に運動会練習後にはスポーツドリンクや塩あめを準備した。 ・登園時の安全確認として、昨年より連絡無く欠席している園児の家庭には必ず電話して登園確認を行うことにしているが、本年度も連絡を徹底した。
教育内容について	・コロナ禍で行動制限を受けていた子どもたちの運動機能の向上をめざして、昨年度より、年長・年中組対象に行っていた専門教師による体育指導を年少組から始めたところ、体力向上につながり、年中組に進級した時に運動能力の基礎もできていて、とても効果的だったと思われる。 ・子ども達が安心安全に遊べる環境として、総合遊具を取替え新たにした。 ・例年6月下旬の保育時間内に行っている「夏まつり」を、本年は7月保育最終日の夕方から開催した。保護者会が主となって模擬店やゲームコーナーなど皆で協力しまつりを盛り上げた。子ども達にとっても「お金を払う」等の経験や、コロナ禍で減ってきている「まつり」の雰囲気を経験できる良い機会となった。

	・行事の時の人数制限がなくなり運動会や作品展では家族皆で楽しんでもらうことができた。祖父母からは初めて幼稚園の行事に参加できたとの声もあり、子ども達の成長をともに喜ぶ環境が戻ってきたことを痛感した。 ・作品展では全体テーマを「テーマパーク」とし、学年別にお化け屋敷やお城など3階ホールいっぱい作品を並べて観覧してもらった。製作における子ども達の成長を見ていただけた。 ・教員は例年、幼稚園連合会、幼稚園連盟、行政機関の研修会には積極的に参加している。加えて、連合会や連盟から派遣されているキンダーカウンセラーによる特別支援教育についての研修を園内で行った。
ICT 化について	・昨年 Wifi の環境を整えたので、今年度より、各クラスに1台の ipad を配布した。保育の様子や行事前の練習を写真や動画に撮って、保育者が保育の振り返りに利用したり、保護者へのブログ発信に役立った。
子育て支援 および 地域とのつながりに ついて	・2歳児の子育て支援に関しては、2歳児クラスをすでに13年前から開設しているが、昨年、登録制にして月極と一時預かりのどちらでも利用できるよう制度を変更した。各家庭のニーズにあわせて利用できるのが利用者が増えた。 ・園庭開放は予約なしで受け入れ、キンダーカウンセラー相談や旭区のブックスタート等もほぼ以前の通り開催できた。

4. 学校評価の目標や計画の 総合的な評価

・感染対策を行いつつも通常通りの保育を行えるようになってきた。一方で、夏は猛暑であったし、冬にはインフルエンザの流行が見られた。1月には能登半島で大きな地震も起こった。コロナだけではなく、病気や感染症、熱中症、不審者対策、交通安全対策、防災対応など安全管理について、絶えず訓練、対策、状況把握が必要であると痛感している。 ・日常の保育はもちろんのこと、体育指導や英語指導も加えて、子ども達の教育の向上を考えた。 上記の取り組み状況について、反省点もあるので、単年度だけではなく継続してより良い保育にしていこう努力していきたい。
--

5. 今後取り組むべき課題

課 題	課 題 内 容
教育内容について	・ 年長組から始めている ECC の英語指導を来年度から年中組から始める。外国籍の園児も在籍しており、多様性の学びにつなげたい。 ・ 全学年で行っている体育指導を基礎に体力強化・運動機能の向上を目指す。 ・ 人に言われたからやるのではなく、自分で考え自分の身を守ることができる第1歩をして、基本的な生活習慣をしっかりと身につけるよう指導する。 ・ 園内外の研修等を通して、教員の質の向上をはかる。 ・ 不審者対策や子どもの園内からのすり抜け対策として呼び鈴がなくてもすぐに戸を開けずに、まずはインターフォンで対応するよう徹底する。
地域とのつながりについて	・ コロナで途絶えていた地域との交流（地域主催の盆踊り、老人の家訪問、小学校との連携など）にも今後積極的に関わっていく。 ・ 特に小学校との関わりを重視し、さらに幼小連携できないか考えたい。 ・ 2歳児対象の未就園児クラス「いちご組」を広く知ってもらい、子育て支援をしていく。 2歳児から利用できる大阪市一時預かり事業（幼稚園Ⅱ型）の参加も検討する。
ICT 化について	・ ipad がもっと保育に利用できないか、また、事務処理や保護者との連絡などにおいても利用できないか考える。 ・ ほとんどの保護者がスマートフォンを使っているのでスマートフォンアプリを使った新しいシステムの導入を検討する。 ・ 現在、紙で配布しているお知らせや欠席等の電話連絡を「はなまる連絡帳」やスマートフォンを使ってペーパーレス化できないか検討する。

6. 学校関係者の評価

- ・ いろいろな行事や体験を保育に取り入れておられることは大変良いのですが、だんだん夏の暑さが厳しくなっているので、7月に開催される「夏祭り」の暑さ対策はしっかりしていただきたいと思います。
あるいは、開催時期の変更も考える必要があるのではないかと思います。
- ・ JR おおさか東線が開通し新しい駅ができて、このあたりも最近少しずつ子育て世代が増えてきたようです。私は民生委員として地区の育児サロンにも関わっていますが、どんどん子育て世帯を支援していただき、赤川幼稚園の連携にもつなげられたらと思います。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。